

静岡県支部

中小企業診断士の技能伝承コンサルティング能力を実践を通して深める調査研究

技能伝承は、どの中小企業にとっても緊急かつ重要な課題であるが、十分に取り組めている企業は少数である。企業内に蓄積された技能の伝承を最も必要としている中小企業にとって、技能の伝承方法が分からない、時間がない、指導者が社内にはない、等の理由で、自力で推進するのは容易なことではない。

地域に根差し、クライアントの経営を良く分かっている中小企業診断士が、技能伝承の支援を行うことができれば課題解決への大きな前進となる。技能伝承研究会は、技能伝承支援のプロフェッショナルを育て、メンバー個々の技能伝承サービスを立ち上げることを目的とした極めて実践的な研究会である。個々のメンバーが、技能伝承サービスを自分のサービスメニューに加えることで、中小企業支援者としての提供価値を相乗的に高めることも狙っている。

このたび、平成 22 年度の調査研究事業の採択を受けて、今までよりも一歩踏み込んで、技能伝承指導の実践にトライした。当研究会の技能伝承は、労働省の研究会で開発されたクドバス（CUDBAS）をベースにしているので、手順は明確になっている。必要なのは、実際の企業の技能伝承の課題解決を実践する現場体験である。幸いにして（株）クリアテックの協力を得て、会員が技能伝承指導を実践できることになった。

会員が指導者および観察者の立場から、毎回の指導を振り返り、指導ステップごとに気づきや体得したことを本調査報告書にまとめた。さらに、指導者として必要な能力、指導マニュアルも整備した。メンバーにおいては、今回の技能伝承指導実践で濃密な経験をしたことが、多くのレポートからもうかがえる。技能伝承に限らず、実践の場でこそ課題が見えてくることを体感した。複数の目で見れば、見る視点、気づきの視点がこんなに多いのか、という発見、驚きもあった。

さらに、当技能伝承サービスを成功させるための要件や会員それぞれが自らのサービスメニューとして、技能伝承をどう位置付け、どのように事業として展開していくか、ビジネスプランも検討した。

技能伝承支援に関心のある方、自ら取り組んでみようとする方にとっては、事業の企画から実際の指導場面をイメージできるようになっている。